

舞の乱のタコの高空の夏



全国各地の大凧、郷土民芸凧が舞う「第五回大阿蘇全国凧あげ大会」が八月五日阿蘇山上の人工スキー場一帯で開かれ、凧マニアなど約一万人でにぎわった。

阿蘇山上はやや風が強いものの、青空の広がる絶好の「凧日和」で各地からの招待客やチビっ子たちが、色とりどりの創作凧を一斉に揚げ、上空は凧ラッシュ。突風にあおられてクルクルと地面に墜落する凧や、糸が切れて飛んでいく凧などもあり会場は一日中歓声がこだました。



シートベルトを忘れていませんか？

熊本県で昭和五五年中四輪車に乗車中死亡した人が五七人ありました。それについて事故当時の状況を調査した結果、シートベルトを着用していれば、その中の四八人（八四・二％）の人が一命をとりとめ、軽傷で済んだであろうという人がかなりあったことが確認されております。

このような実態を踏まえ、県及び県交通安全推進連盟では、シートベルトの着用運動を本年度の最重点として推進しておりますが、「面倒だから」、「きゅうくつだ」と言って着用が向上しません。そこで、シートベルトの効果や着用方法等について紹介し、この運動の定着化を図ることとしております。

シートベルトの効果

■事故予防効果

△運転姿勢を正しく保つ。

△ハンドルの操作が確実になり、視界が拡大し安全運転ができます。

△運転疲労を軽減する。

△よけいな動作を防ぎ運転に集中することができます。デコボコ道でもカーブでも、しっかり身体を固定します。

△動体視力を向上させる。

△腰が安定するため、車体の動きに身体が良く調和し動体視力が向上します。

△安全意識を向上させる。

△車に乗って、シートベルトを着用することにより、気持ちの切り替えをうながし、また気持ちにゆとりをもたせます。

■事故時の乗員保護効果

△正面衝突や追突などの衝突事故の場合、乗員が頭や胸をフロントガラスや車内で打つことを防止します。

△車外放出や車内転倒を防止します。

シートベルトの正しい着用方法

- △腰ベルトは胸を締めつけないように必ず腰骨の位置でしめてください。
- △ベルトはよじれがないように必ずチェックしてください。
- △バックルはカチツと音がするまで確実に差し込んでください。
- △長さ調節式ベルトの場合は、胸と肩ベルトの間に、にぎりこぶしひとつが入るくらいの余裕をもたせて、肩ベルトの長さを調節してください。

車が衝突した時の衝撃力

車が衝突した時の衝撃は信じられないくらい大きく、たとえば時速八〇kmで二五メートル、六〇kmで一四メートル、四〇kmで一四メートルの高さから落下したと同一衝撃といわれております。車が固定壁に時速二〇kmでぶつかった衝撃は体重の六〜一五倍にもなり、死亡事故の例さえあります。ドライバーは、通常の状態では腕によって五〇kg、脚によって二〇〇kgの力、すなわち体重の二〜三倍程度しか支えられないと言われております。（時速に換算して約七km）

シートベルトに関する誤解

△シートベルトは一般道路では不要ではないか。
事故統計によれば、人身事故の九九・五％死亡事故の九八％は、低速で運転している一般道路で発生しています。一般道路での着用がぜひ必要です。

△水中に転落したとき車から脱出できないのではいか。
シートベルトを着用していないと、衝撃のため気絶したり死傷したりして車から脱出することができなくなります。シートベルトを締めれば傷の程度が軽くなるので早く脱出できます。

シートベルトは、あなたの命を守ります！！



シートベルト着用車ステッカー
65万枚作成配布
(県内4輪車台数)